

目指す学校像	愛情と信頼に支えられた 夢と希望を育み 成長する学校 (3つのGで成長する学校)
重点目標	1 「学びの自律」「学びの個別最適化」と「学びの探求化」の実現 2 安全・安心な教育環境の整備・充実 3 SSN連携の強化とコミュニティ・スクールによる地域連携事業の実施と推進 4 「生徒の探求的な学びに伴走できる教師」の具現化

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標							実施日令和6年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査において、国語では「我が国の言語文化に関するもの」数学では「データの活用」について概ね達成できている。 ○上位層と下位層の差(フタコブ分布)がある。 ○日頃の学習の様子から、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動について、前向きに取り組もうとしている生徒が多い。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、「学習したことが身の回りのこととつながるようにする」「自分の考えを、根拠を明確にして表現できるようにする」ことについて、改善と努力を要する。 ○「家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目の数値が低く、学習計画の立て方や励ましの継続的な取組が必要である。 ○教科の特質に応じてICTを活用した学習活動を設定し、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学びの自律」「学びの個別最適化」「学びの探求化」に向けた実践 ・心の教育・豊かな人間性の育成 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校の課題に基づき、学力向上サポートフォリオの手立てについて自己評価シートに各教員が位置付ける。 ②校務分掌の「学習部」を中心にドリルパークやスタディ・サプリの活用について具体策を検討し、家庭学習習慣の定着・充実に取り組む。また、小学校とも課題を共有し連携する。 ③学びの自律化を目指すICTを基盤とした「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業を実践する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①人事評価面談において、すべての教員が位置づけ、評価面談等が実施できた。 ②学校評価アンケート項目「⑤家庭学習の習慣がなされている」において、前年度の57%以上となった。 ③「よい授業」のアンケート項目「児童生徒の活動」で昨年度の3.3以上となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①ポートフォリオの手立てについて、すべての教員が位置付けた。また、評価面談についても実施できた。 ②家庭学習週間の設定、国語、社会の確認テストに取り組んだ。またドリルパークやスタディ・サプリの活用に取り組んだ。54%(生徒)で、昨年より3pt減となった。 ③指導課訪問等を通して授業実践に取り組んだ。「学びの指標」は3.3ptで、昨年と同等であった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指した指導法の改善 ○児童生徒等の学習の改善を図るため、教育データ(SSSP)を適切に活用する。 ○「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、生徒の興味・関心を引き出す学びの動機付けや資質・能力の育成に向けた効果的な授業改善。 ○主体的に取組む家庭学習の充実。 ○ICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを効果的に活用する 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート等を基に、総合的に判断しているのであれば、提示されている達成度は低く見える。控え目な評価になっている。もっと自信を持って肯定してよいのではないかと。 ・オールAという評価の学校がないわけではない。達成度、達成状況についてAでもよいのではないかと。 ・家庭学習ができていないところをどう捉えるか。授業実践については、指導訪問を活用して「できた」という評価ができればよい。「A」を付けるか、ではその次にどうするかが難しいというところもある。B評価が妥当ではないかと。 ・全国学調の1.8pt増は一つの成果だと思う。地域や社会について授業でも取り上げていくからではないかと。評価をAとしてもよいのではないかと。
2	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校評価において、「楽しく学校生活を送っている」は95%を維持することができた。 ○特別に配慮を要する生徒の数は、年々増加傾向にある。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまで以上に、地域や保護者の方が授業や行事等を参観できるようにするなど、学校の現状を正しく理解していただける機会を作っていくことが課題である。 ○中一ギャップ、アフターコロナによるストレス生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいため、今後も、生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、組織で支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○信頼度における肯定的な回答は53%であり、自己肯定感の向上を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた生徒指導・教育相談における支援体制の充実 ・12年間の学びの連続性を生かした学校行事と小・中一貫教育の推進 	<ol style="list-style-type: none"> ①個別対応が必要な生徒の職員配置を柔軟に行い。個別の指導計画に反映させる。 ②組織的な教育相談体制を充実させ、不登校生徒や配慮を必要とする生徒については、家庭との連携をもとに、きめ細やかな対応を行う。(生徒指導・教育相談・特別支援の連携・ケース会議の実施等) 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校自己評価に係る生徒・保護者アンケート、「⑩学校は、私たちが保護者の相談事や悩みなどについて、親身に応じてくれる」等関連する項目の肯定的な回答の割合が昨年度の88%以上となった。 ②学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目「⑩相談事や悩み事について親身に応じている」の肯定的な回答の割合が97%以上となった。 	<ol style="list-style-type: none"> ①スクールアシスタントや日本語指導員の配置を個に応じた、柔軟に対応した。90%で、昨年より2pt上回った。 ②運営委員会、生徒指導委員会、教育相談部会の連携体制を構築し、教育委員会や他機関と連携を積極的に図った。97%で、昨年度と同評価であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒一人ひとりへの細やかな指導と支援体制の充実 ○教職員の共通理解のもと、教育相談部会等において、個に応じた支援の一層の充実と、通常学級と特別支援学級における弾力的運用について、さらに取り組む。(Solaる一む) ○生徒との信頼関係を構築すると共に、それぞれの可能性や活躍の場を引き出す集団づくり(学年・学級経営)を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境はかなり恵まれている。自治会との連携もとれている。さらにどう生かすのか、また継続できるか。使い方の工夫が必要である。 ・12年間の学びの連続性があるが、実際には義務教育9年間という枠が強い。9年間としてもよいのではないかと。 ・「個に応じた生徒指導」についても個々に対応してもらえるとよい。
3	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○藤花教室の学習支援ボランティア、自治会・育成会・PTAを中心としたSSNからの支援を得て、地域と学校との協働活動が実施されている。 ○昨年度の学校運営協議会において、目指す生徒像等について熟議を積み重ね、地域総がかりの教育を目指していくことを共有した。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校運営協議会で協議した内容(地域や家庭でどのような子どもたちを育てていくのか等)についてさらに熟議し、その実現に向けた具体的な方策と実行について役割を確認し継続的に取組を推進していくことが課題である。 ○令和6年度に創立50周年を迎えるにあたり、学校・家庭・地域が連携し、来年度の実施に向けて協同していくことが求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSN連携の強化と地域連携事業の実施と推進(創立50周年記念事業の取組) ・開かれた学校づくりを目指した情報発信 	<ol style="list-style-type: none"> ①地域の教育リソース(土曜チャレ:藤花教室)を活用した教育活動を年間計画に位置付けて年20回実施する。 ②公民館との連携事業、地域行事等への積極的な参加と、朝のあいさつ運動やボランティア活動等を生徒、PTA・地域とともに、連携して実施する。 ③創立50周年記念事業実行委員会の立ち上げと運用計画を実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①土曜チャレンジスクール(藤花教室)が、年間20回実施できた。 ②③学校自己評価に係るアンケートで、「⑩地域の行事に積極的に参加している」で、昨年度の30%を上回った。 	<ol style="list-style-type: none"> ①年間20回実施できた。 ②PTAや青少年育成会の協力のもと、生徒会本部を中心とした「朝のあいさつ運動」や、自治会・公民館との連携活動を通して生徒の活躍場面が増えた。34%で、昨年より4pt上回った 	A	<ul style="list-style-type: none"> ●地域・社会や産業界と連携しながら、学校の教育活動全体を通じて、生徒が自分らしい生き方を実現するための力の育成 ○チャレンジスクールの趣旨やよさを広げていくとともに、実施日の調整等生徒がさらに参加しやすい環境を作っていく。 ○学校・地域・家庭が共有する「地域行事カレンダー」を作成し、積極的な参加を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジスクールの参加者が減っている。以前は部活からの参加がきっかけになっていたところもあるので、より広げてほしい。 ・小学校はチャレンジスクールを月曜に行っている。土曜も日曜も参加者は減っている。他の学校は最初に参加者を募っている違いもあるが、西中だけの問題ではない。学級担任からの働きかけなどがほしい。
4	<p>〈現状〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○STEAMS TIMEの課題の洗い出しや、その改善方法については、途上段階である。 ○タブレットの活用方法について、エバンジェリストによる情報提供や研修に取り組んできた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○タブレットの活用、学び合いを軸にした授業改善については、教員の取組に個人差が見られ、成果や課題を共有し改善していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の探求的な学びに伴走できる教師の具現化 	<ol style="list-style-type: none"> ①STEAMS TIME、教科横断的視点等について、研修主任、エバンジェリストを中心とした研修を学期に1回行う。 ②全国及び市の学習状況調査の結果を分析するとともに、学力向上カウンセリングの研修(2学期)を実施し、指導力の向上に取り組む。 ③OJTや対話に基づく受講奨励等について、人事評価面談や行事等において振り返りを行う。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて日常的にICTを活用する状況になった。 ②学力向上カウンセリングの研修後の、授業アンケート項目において、前年度の3.4を上回ることができた。 ③全ての教員が、授業改善策に取り組む、80%以上の教員が達成を実感することができた。 	<ol style="list-style-type: none"> ①計画訪問において、全ての教員が「主体的対話的で深い学び」について授業実践に取り組んだ。また、研修も実施した。 ②項目ごとに分析を行うとともに、学力向上カウンセリング研修を実施した。学びの指標で基礎項目が3.5であった。 ③学校評価「⑩学校はわかりやすい授業の実践に動いている」では、100%の教員が、授業改善に取り組むことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ●組織(教科会等)の連携と教師一人一人の専門性の向上 ○研修部において、授業改善に関わる年間研修計画の立案と実践 ○「理論と実践の往還」の実現(自らの実践を理論に基づき省察するための研修) ○研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励の取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の教員に授業を見てもらう機会を多く作ってはどうか。それが力量を高めていくことにつながると思う。 ・決めつけたり押し付けたり、乖離がないように話すことが大切。教育が形式的に終わらないように、先生同士で学び合うことをしてほしい。

